

昭和 63 年春期シンポジウム (第 30 回) 報告

梅 村 武 夫

昭和 63 年 4 月 6 日 (水) 新潟大学農学部で総会とシンポジウムが開かれた。

I. 総 会

1. 昭和 62 年度活動報告

1) 春期シンポジウム 2) 夏期シンポジウム 3) 会誌 (第 13 号) の発行などについて報告があった。

2. 昭和 62 年度会計報告

総会の時点では中間報告がなされた。決算報告は本誌会計報告を参照されたい。

3. 名誉会員について

本年度は該当者なく追加は見送られた。

4. 会則の改正

常任理事に「会計」を加えることが承認された。

5. 新役員の選出

下記の新役員が承認された。

林業統計研究会役員名簿

会	長	南 雲 秀次郎	(東 京 大)
副	会 長	小 林 正 吾	(新 潟 大)
		大 貫 仁 人	(森 総 研)
		西 川 匡 英	(森 総 研)

常任理事：

(運営委員長)	木 平 勇 吉	(信 州 大)
(事務局 長)	梅 村 武 夫	(名 古 屋 大)
(編集委員長)	末 田 達 彦	(名 古 屋 大)

(会 計)	長 嶋 郁	(名 古 屋 大)
理 事 :		
(九 州)	増 谷 利 博	(九 州 大)
(四 国 ・ 中 国)	稲 田 充 男	(島 根 大)
(中 部)	野 上 啓 一 郎	(静 岡 大)
(関 西)	石 川 善 朗	(京 都 府 立 大)
(関 東)	山 本 博 一	(東 京 大)
(東 北)	柴 田 信 明	(岩 手 大)
(北 海 道)	阿 部 信 行	(北 海 道 林 試)
会 計 監 査	長 正 道	(九 州 大)
	梶 原 幹 弘	(京 都 府 立 大)
運 営 委 員	内 藤 健 司	(宇 都 宮 大)
	箕 輪 光 博	(東 京 大)
	田 中 和 博	(三 重 大)
	天 野 正 博	(森 総 研 関 西)
	粟 屋 善 雄	(森 総 研)
	高 橋 教 夫	(山 形 大)
	上 野 洋 二 郎	(東 京 農 工 大)

6. 投稿規定の改正

1) 原稿の分類について

従来の分類「論文」、「総説」、「雑録」に「報告」、「資料」を加えることにした。

2) 別刷代金について

原則として別刷は50部とし、別刷代金 1,500円/頁を徴収することにした。

7. 昭和63年度活動計画

下記の計画が了承された。

- 1) 春期シンポジウム(新潟大)
- 2) 夏期シンポジウム(京都府立大)
- 3) 日本・ニュージーランド合同セミナー
- 4) 会誌(第14号)の発行

II. 春期シンポジウム

本年度は林業統計研究会・森林経理学研究会合同で開かれた。

「これからの森林計画を考える」をテーマに、下記の話題提供があり、活発な討論が続いた。

記

南雲秀次郎：森林計画制度を考える。

木平勇吉：ポートフォリオ型の森林計画。

今田盛生：事業区の適切な設定とその計画過程の分化。

なお詳しくは森林計画研究会「会報」(第315号)を参照されたい。またその際の討議については、石橋整司、露木聡両氏による記録(日林誌別刷)を会員に配布する予定。

III. 懇親会

主催者の必死の努力により幻の銘酒「越の寒梅」が調達された。新説「酒のみには女の子がでない」が出席者の間では受容され、今後も観測を続けることにした。

以上